

2008年 医療統計実習コラム

4月8日

日本酒が好きなので、六条タキモトが主催する「吟醸あらばしりの会」に3月9日、恵子先生とふたりで参加した。もうこれで4度目の参加であるが、まあだいたい日本酒が9種類出る。最初の2回くらいはペースがつかめず、つぎすぎ、飲みすぎ、でいずれも途中リタイア。前回はゲノム情報疫学の松田先生と一緒にいったこともあってか、ようやく押さえ気味に進み、途中へろへろにならずに無事すんだ。

いつもは6時からなのだが、今回は日曜なので5時開始。いろいろなお酒が8種類、心してかからなければ。最初は獺祭の発泡酒、越州桜日和(吟醸)、メ張鶴純。獺祭は濁り酒でやや甘口、スターターとしては先生はいいと思うのだが、恵子先生は×。まあいいからたん熊北店のおいしいお弁当をつまみに飲みましようや。この会はお酒の品揃えもいいが、お弁当がおいしいので毎回楽しみにしている。越州桜日和は朝日酒造のお酒で、まあ悪くはないが、メ張純のほうが飲みなれているのでおいしく感じる。

次は醸し人九平次(純米吟醸)、田酒特別純米酒、臥龍梅(純米吟醸)。九平次は先週うちでも飲んだところだけどやはりうまい。ほかの純米吟醸とくらべられると田酒はちょっとかわいそうか。田酒はむしろ好きなお酒なのだが、華やかさがなく重く感じてしまうので、出すのだったら最初のほうがよかったかも。臥龍梅ははじめてのお酒だがいける。

最後は浦霞純米大吟醸と英勲季節限定大吟醸。この浦霞がよかった。大吟醸の名前の通り華やかで甘くかつ酸味があり、まさにうち好みのお酒で、恵子先生はこれを3本買えという。しかたがないので、浦霞3本と臥龍梅を1本買い求め帰宅と相成った。

4月15日

このところボンゴレにはまっている。発端は恵子先生と長浜にいったとき、[長浜浪漫ビール]でボンゴレを頼んだら、これがうまかった。(ちなみに長浜浪漫ビールは地ビールを作っていて店で飲ませてくれる。ここのビールは傑作で、長浜に行ったときには必ず寄るべきところである。)そんなわけで、春はあさをみつけると買い求めボンゴレを作っている。

日曜日、恵子先生がスピリチュアルだかなんだかという怪しげな講習会を受けに朝から津に行ってしまったので、ひとりで買い物に行く。筍でも買おうと錦をぶらぶらするものの、めぼしい八百屋がお休みで、手ごろな値段のものがないので筍は断念。結局、錦では出汁用のかつおぶしの粉を買っただけで、大丸に。

昨日、Daniels の生パスタを買っておいたので、今晚はパスタにでもするか。ひょっとしてあさりはあるかなと魚売り場に行くと、あるある小ぶりだけどあさり 300g を買い求め今日はボンゴレだ。パスタはふだんトマトソース、バジル、パルメジャーノであっさりと食べる事が多く、ボンゴレは作り方がめんどろそうなのでなんとなく敬遠していたのだが、ある日あさりの酒蒸しを作ったら、あさを食べた後にあさりのうまみをたっぷり吸った汁が残った。そのまま飲むと

しょっぱくて、身体に悪いからやめろと言われるので、一計を案じて(死語か?)ごはんを入れて電子レンジで加熱してみた。そしたらこれがあさりピラフのようになり大正解。

あれ、それならあさりのワインを蒸しのなかにパスタを入れたら、めんどろなこともなくボンゴレができるんじゃないか。できるんだよねえ、とてもおいしいボンゴレが。さて、ボンゴレとなると今晚は洋風なので、レタス、きゅうり、水菜、トマトでサラダを作って、メインは鶏でも焼くか。もも肉を1枚買ってローズマリーで香草焼きにしよう。あとは前菜としてチーズとパンで、さすがに日本酒は合いそうもないのでワインか。ブリーチーズを買い手ごろなワインを物色する。でもワインはわからないんだよねこれが。しかたないのでいつもチリとかスペインの手ごろな値段のワインでいつもごまかしているんだが、幸い大丸にうちの好きなチリの **Montes** があったので白を一本買う。(だいたい日本酒なら4合で1500円もだせばうまい純米吟醸が買えるのに、ワインはなぜあんなに高いのか。みんなで日本酒を飲もう。でも今日はワインだ。)

恵子先生帰宅後、宴会のはじまり。よなよなブラック(よなよなについてはまた別の機会に)を一杯だけ飲んで、ワインに切り替える。ちょっとぜいたくに飲むワインを少し取って、ボンゴレ用のワインにする。鶏の香草焼きもボンゴレもおいしかった。

4月22日

先週は医療統計のみならず、疫学の講義もあってたいへんだった。が、John Snow 先生の話は先生が学部で疫学の講義を聞いたときにしり、まるで推理小説を読むような内容にいたく感激したので、みなさんにも是非その感動を伝えたいと、がんばって講義しているしだいである。疫学の講義はもう一回あるのであきらめて聞くように。

先週は錦でいい筍が手に入ったので、早速ゆでて土曜日は穂先を若竹煮にし、日曜は下のほうを分厚く切ったたけのごご飯にした。穂先の部分、特にひめ皮のところは甘くてとてもおいしかった。たけのごご飯もシンプルにたけのことうす揚げだけにして、昆布だしと塩、しょう油少々のみで炊いてみる。(もちろん鍋で炊く。)外でたけのこご飯を食べるたびに、薄くてたけのこだかなんだかわからない、状態だったので思い切って厚切りにしてみても大正解。たけのこの香りだけでなく歯ごたえもよく、おいしいたけのこご飯が堪能できた。今年はまだ一回くらい筍を食べたいものである。

5月13日

連休とは名ばかり、医療統計の講義・実習こそ2週続けて休講という残念なことになったものの、その間先生は人間健康科学科2コマ、医学科3コマの講義をこなし、明日も医学科2コマと殺人的なスケジュールなのであった。とくに医学科は今年から医療統計の講義を新たに5コマせよ、とのお達しで、連休返上でその準備がたいへんであった。しかしまあ、人間健康科学科では120人もいる大教室での講義で、寝るわ寝るわ。屍の山。屍に講義しても仕方ないので、もう来年からはやめようと固く決意した。

医学科もねえ、初日は3限、4限2コマ続きで中休みに「出席表に名前を書いて、資料を

一部持って行くよう」アナウンスしたら、出席表には 60 人名前が書いてあるのに、4 限がはじまるときには 24 人しかいなかった。ふざけるにもほどがあり、当然「もう一度出席をとります。」だいたい授業だというのに勝手に立ってどこかへ行く、ケータイを使う、パンを食べる、一体なんだと心得ているのか。社会健康の講義ではありえないこの実態。自由を「なにをしてもいい」と履き違えている学生はいつか痛い目を見るに違いない。

5 月 20 日

5 月 8 日、医療マネジメントの講義にいらした橋本廸生先生は、先生が東大保健学科の学生るとき保健管理学教室の助手をされていた。当時、保健学総合実習で保健管理学教室に配属になったため実習中はたいへんお世話になり、今でも頭が上がりないので講義終了後にご挨拶にうかがったのである。保健学総合実習はけっこう長い期間あり、1 ヶ月くらいだっただろうか。下谷の保健所に 1 週間通ったり、テーマはなんだったか忘れてしまったが、ジョン・スノウばりの地図を描くんだと、12 色の色鉛筆すべて使って地図を描いたら「お前は色基地外か」と没にされてしまった。まあ他にも老人施設に行ってお年寄りの自分史を聞きだしなさいとか、精神病院に行ってきたさいとか、おもしろい実習がたくさんあったものである。

5 月 27 日

土曜日、錦に買い物に行く前に大丸に立ち寄ったところ、やはりというか恵子先生が日本酒売り場で罍にかかる。「常きげん」という石川の蔵が来ていて、5 種類も試飲する。また蔵元のお姉さんがそれぞれかなり注ぐものだから、先生は飲みすぎて悪酔いしてしまった。しかも家にはお酒がたくさんあるのに 4 合瓶を 2 本も買い、蔵元の術中にはまりっぱなしである。

6 月 3 日

鈴木継美先生が亡くなられた。鈴木先生は先生が学部の学生るとき、人類生態学教室の教授として着任され、その後先生は大学院で疫学教室に進んだので直接教えを受けることはなかったが、厳しくも暖かい不思議な先生であった。鈴木先生の口癖は「お前ら、ばかだなあ」であり、その後で「お前らみたいなばかがいる間は、われわれもがんばらないといかん」が続くのだった。先生はへぼ碁ではあるが、一応碁を打てるので、鈴木先生とはよく碁を打った。囲碁はよくしたもので、実力差があっても「置石」というハンデがあり、先生は鈴木先生に 3 子(弱いので置石を 3 つ置かせてもらって開始)で打っていた。ときにはまだ学生だった先生のところへ、5 時をすぎると人類生態の秘書さんが「鈴木先生が碁を打とうといっています」と呼びにきて、そういうときはすべてのことを中断していかねばならぬのだった。

当時、疫学と人類生態は院生の数も多く、夜な夜な酒を飲んでいたのであるが、人類生態にもよく飲みに行った。人類生態はスタッフ、院生みなからみ酒で、酔うと必ずからんでくるのであるが、鈴木先生にも「佐藤はなにをしたいんだ」とか「なにになりたいんだ」とよくからまれた。(もちろん「立派な疫学者」とか「立派な医療統計家」とかテキトーに答えるのだが。)

教育者、研究者としてもすばらしく、卒論や修論の発表会でのいつも最前列でコメントをし、保健学科をよくするんだという気迫にあふれていたし、コメントは勉強になることが多かった。

鈴木先生、おつかれさまでした。

やっと忙しいのが一段落した。連休中の保健学科の講義に始まり、連休明けの医学科講義、医学科チュートリアルと続き、先週の疫学講義、金曜はその後大阪に出向いて、リリースプリングセミナーという若手小児内分泌医の集まりで医療統計の講演をし、翌土曜の朝は医療統計ワークショップ。やれやれこれで来週は水木と筑波で日本計量生物学会(日本の医療統計家が一堂に会するマイナーな学会)なのでのんびりできる。とっていたら、聖路加看護大学の柳井晴夫先生に講演を頼まれた。(柳井先生は先生の統計の先生。)年賀状に何の気なしに「一度聖路加に遊びに行きます」と書いたら、どうせくるんだったら講演をしてもらうということになったらしい。なぜだ。で6日は聖路加、しかも2つ講演を頼まれ、もうどーにでもしてくれ。こうなったらもう仕方がないので、なんとか7月の国際計量生物学会(世界中の医療統計家が一堂に会するマイナーな学会)までもたせて、医療統計は休講にし(すまん)アイルランドでおいしいエールをたらふく飲む。t検定も発明100周年だ。

6月10日

先週は水、木と筑波大学で日本計量生物学会があり、金曜日は聖路加で講演を頼まれてしまった。聖路加には先生の統計の先生、柳井晴夫先生が勤務しており、柳井先生の依頼なので断れず、臨床研究センターの先生たちに傾向スコアの話、聖路加看護大学の学生さん、先生たちに疫学、医療統計入門の話をしてきた。せっかく築地に行くので、お昼はうまい寿司を食べない手はない。以前は築地といえば場内の[大和]にしか行かなかったのだが、最近は観光客が朝から並んでいてとても食べられる状況ではない。そこで最近は[ととや]の隣の[すし大]に行く。[ととや]は焼き鳥井の名店。ふつうは築地に行くとお昼はととやであるが今日はなんとしても「寿司」。すし大の「店長おまかせ」は3500円もするが、ネタのよさとなによりも最後に「好きなものを1つなんでも頼んでいい」というのが泣かせる。金目や穴子もうまかったが、巻物もよく、最後の好きなものはあわびを握ってもらい、大満足で店をでた。とてもいい気分が講演ができたのはいうまでもない。ランチにはなんと1000円の握り、1500円の1.5人前握りもあり、隣に座った方は1.5人前を注文していたが、これがまたうまそうだった。次回は1.5人前のランチ握りを食べるのが直ちに議決されたのは言うまでもない。

6月17日

土曜日はオープンキャンパス、お疲れ様。朝から夕方まで、先生はぐったりしてしまっただが、委員の人たちもたいへんでしたね。というわけで、夕方からは医療統計(+大森先生の奥さんとお嬢さん)、CRC コース合同のオープンキャンパス打ち上げ。枝豆、焼き鳥、サラダ、551のギョーザ、ミニトマト、もろきゅう、プティギャルソンのピザ、志津屋のサンドイッチ(CRC コー

スのお昼の残り)などで開始。ビールはいわずとしれたよなよなに今日は「インドの青鬼」。その昔、イギリスがインドを植民地としていたとき、イギリスからインドまでビールを船で運ぶのであるが、なにせ遠いのと暑いのでビールが傷んでしまう。そこで保存のため通常よりもホップを大量に入れたビールを作り、India Pale Ale (IPA) と呼んだ。先生は IPA が大好きなのでこのインドの青鬼も苦味が利いてうまかったが、アルコール度数をみたら 7%もあって、ちょっとびっくり。

大森先生は家族と早めに帰ったが、その後も宴は続き、ご当地ネタ(みなさんは宮崎と鹿児島、どっちが都会だと思いますか)や「これをやらせたら自分の右に出るものはいない」ネタで盛り上がる。

今日の実習からドラえもんが来てくれるかもしれません。もしドラえもんをみかけたら、「ドラえもん、ランダム化について教えてよ」と頼んでみよう。

6月24日

毎週火曜は医療統計の講義と実習があるので、ついでに夕方からは医療統計ゼミをやっている。月に一度は拡大ゼミである、医療統計 OB・OG、関西の製薬メーカーに勤める統計家などに声をかけ Kyoto Biostatistics Seminar 通称 KBS を行っている。この KBS の後、いつも宴会をしているのだが、場所は出町の〔紀州屋〕と決まっている。紀州屋は魚がうま、料理も酒もよい。最近では医療統計忘年会も紀州屋だと、社会健康の准教授と講師の会合もなぜだか紀州屋で開かれているらしい。来月あたりは鱧しゃぶではないだろうか。鱧は京都にくるまで食べたことのない食材であったが、いまから楽しみである。

医療統計の TA 野間さんのレポートタイトル最高傑作は「ぼく鱧うがなばれません」というのだが、残念ながら彼は提出するときにタイトルを変えてしまい、幻の最高傑作タイトルとなってしまった。(じゃあなんでわかったかって? 最初にワードファイルをセーブするとき、ファイルの最初の文章が文書プロパティの「タイトル」欄に書かれてしまうのだよ。)

7月1日

先週は木、金と東京出張だった。木曜は糖尿病戦略研究の試験評価委員会、金曜はヘリカルCTによる肺がん検診の班会議。木曜はその前に森田先生(前医療疫学講師)が横浜市立大学の教授に就任されたので、森田先生のいる市大センター病院に寄ってセンター長の田中先生にご挨拶を。田中先生とはラクトフェリンの臨床試験以来のお付き合いなので、もうかれこれ 10 年になる。それはそれとして、横浜だからとお昼は市大センター病院のある阪東橋駅の近くで中華料理屋に入ってチャーハンを食べたのだが、これが大はずれ。また夜は夜で会議の前にお弁当が出たもののこれもいまひとつ。2 食損してしまい、ブルーな気持ちのまま一日が終了した。

明けて金曜日。木曜は長袖のシャツにジャケットを着けていても肌寒いくらいだったのが、今

日はいい天気だし温かい。しかも会議は築地のがんセンターときている。これは昨日の 2 食損を取り戻さないわけには行かないではないか。颯爽と築地にいき、一目散に[すし大]に。しかしこの日は隣の[ととや]で焼き鳥丼にしようか大いに悩む。が、前回決定事項なので、すし大にてランチ握り 1.5 人前。もちろんネタは 3000 円の店長お任せとは比べられないが、それでも 1500 円でこんなにとくらい満足した。がんセンターに向かう途中、[大興]でまぐろを買う。ここはもう常連なのでお店のいうがまま。ほしい量をいうと黙ってマグロが出てくるので、おとなしくいわれた料金を払ってそれをいただくのみ。今回も「いいところをちょっと」というと近海の大トロがでてきたのでそれをもらう。と、「たりないなら赤身も持ってかない」。こういうのも断ってはいけないことになっている。大興のそばの店で鮭を買い、これでしばらくは楽しめる。なんだか会議はもうどうでもよくなったが、このまま帰るわけにもいかないよね。

7 月 8 日

先週の月曜はたいへんだった。東京で午後 2 時から 4 時という中途半端な時間に環境省の会議が入ったため出張したのだが、これが一番具合の悪い時間帯で一日つぶれてしまう。その前の週は木金と東京出張だったため、しかたなく日曜に出勤して火曜の講義と実習の準備をして、月曜の教員会議の資料も準備し秘書の小林さんにコピーをお願いします、と書きおいて月曜朝から東京へ。しかし講義と実習の準備が終わってもレポートを読まねばならぬ。しかたないので会議では使わないのにパソコンを持って、新幹線の中でレポートを読む読む読む、ひたすら読み続ける。と小林さんから携帯にメール、みると「総務掛から専攻会議の資料として前回教員会議の議事要旨がほしい」とのこと。あれ、昨日コピーしたはずだが、と小林さんにメールに送ったものの、そういえば印刷し忘れたことに気がつく。パソコンはあるので、ファイルは入っているのだが、どこかでインターネットにつなげないと送れない。月曜はうまい蕎麦が食べたかったので、広尾の[箱根暁庵]でそばを食べ、会議場所の虎ノ門パストラルに行く予定だったが、小林さんへの返信メールを書き忘れて丸の内線を通り過ぎてしまった。時間が厳しいので急遽予定を変更し、神谷町の[巴町砂場]で「とろそば」を。まあお勧めだけあって悪くはないけど、あの値段であの蕎麦の量はないだろう、だって蕎麦だよ、もうちょっとお手軽な値段でおいしい蕎麦がたべられないと、てなことを言ってる場合ではない。ともかく虎ノ門パストラルに行ってインターネットに接続できる場所はないかフロントで聞く。いまだきどのホテルでも客室で LAN に接続できるご時勢なので、こっちは無線 LAN かなにかにつなげる場所を想像していたのだが、なな一んと「左手のビジネスセンターで有料ですが接続できます」。むむむ、とは思ったが会議の開始時刻も近づいており、ビジネスセンターに行くと「15 分 100 円」。高いんだか安いんだかよくわからないが、つないで小林さんに議事要旨を送る。一瞬ですむがやはり 100 円は帰ってこない。ついでにメールをダウンロードすると、レポートがたくさん。帰りの新幹線でもレポートをこれまた読む読む読む。

7月22日

早いものでもう医療統計の講義と実習も今日で最後である。(あ、まだレポートと発表会があるので安心してね。)発表会が終わった後は例年打ち上げをやっているのですが、みなさんもぜひ参加してほしい。

なんだかレポートのタイトルや感想について不満のある学生諸君がいるようであるが、ちょっと以下のような状況を想定してみようではないか。

「あなたはおもしろくない医療統計の実習を担当しなければならなくなりました。できれば医療統計とは関わりを持たずに暮らしたいのだが、なぜだかどうしても医療統計をやらなければならなくなってしまった学生さんが30名も実習を選択しています。実習なので、あなたは学生さんに毎週レポートを提出してもらい、それで成績をつけることにしました。さてその結果、あなたの手元には毎週判で押したように「医療統計学実習第1回レポート」といったタイトルのレポートが送られてきて、しかも内容はみなほとんどおなじです。(みんなおなじ実習をしているのだから、あたりまえだよ。)

あなたはそのほとんどおなじタイトル、ほとんどおなじ内容のレポートを毎週毎週来る日も来る日も30通も読まなければなりません。これはなにかの罰なのでしょうか？」

ま、というわけで、これを罰と思うか、楽しい作業だと思うかということは先生にとって大きな意味があり、もし万一仮に「楽しい作業」だと先生が錯覚することができれば、先生もハッピー、みんなもハッピー、ということになるわけだ。そのためにはどうしたらいいだろうか？ みんなで考えてみよう。

さてそこで今回の実習だけど、ほんとうはね、こういう実習を2コマだけではなく1月くらいじっくり時間をかけてやらなくてはいけないのだよ。社会健康の講義、実習ではみなさんが実際に調査や研究をするときに必要な内容を習うけど、いろいろな講義、実習でばらばらに習っていることを統合してはじめて研究になるのであって、ばらばらのパーツをしっているだけでは研究はできないんだ。たとえば言えば、いまは自動車のプラモデルに必要な各パーツの作り方を勉強している段階で、型はできたけどまだ組み立てられていない状態。これを自動車にするためには、各パーツを組み合わせて、意味のある形に作り上げないといけないんだけど、そういう実習がなかなかないんだよね。

テーマはなんでもいいんだけど、研究の目的を考え、必要な対象者数を計算し、調査票や計画書を作り、他の班が作った計画書の審査をして、対象者をサンプリングしてインフォームドコンセントもして調査を実施し、解析してプレゼンするという総合実習。どうしたらできると思いますか？